

1 学校教育目標

本校の綱領「自己を知り、自己に培い、社会を知り、社会を愛せ」に基づいて、自ら目標を持って学ぶ力を養うとともに、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立した人間の育成を目指す。

2 重点目標

ア 第3期「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」の基本理念「兵庫が育むこころ豊かで自立する人づくり」の実践に向け、生徒の学びを支える仕組みの確立を図りながら未来への道を切り拓く力を育む。

イ 文部科学省の令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の指定を受け、持続可能なふるさとづくりのための人づくりを推進する。平成30年度より導入した「観光・グローバル類型」(全県から生徒募集)と「地域探究類型」では、生野銀山や竹田城など観光資源豊かな朝来市にある本校から、グローバルな視点とともに地域の魅力を伝えられる発信力を持った人材や地域の課題解決に向けた提案ができる人材を育成する。

ウ 「自ら考え、未来を切り拓いていくことができる生徒」「地域を愛し、地域の担い手となる生徒」「グローバルな視点を持ち、自らの言葉で語ることが出来る生徒」を育成する。

4 学校関係者評価

- ①・通学生徒の様子を見る限り、基本的な生活習慣は身につけていると思います。・挨拶やマナーの指導が十分されている。・「継続は力なり」教職員、保護者、生徒が丸となり続ける事が大切・登下校時のあいさつはしっかりされています。これからも続けてほしいと思います。
- ②・少人数の状況の中で、部活動等は活発に活動していて教育効果も上がっていると推測できます。・学びを深めたり、刺激を受ける良い機会であると思う。・自ら調査したものを、自らの言葉でプレゼンする力は社会に出て必ず必要なので、重点的にお願いしたい。・部活や、日々のやり取りの中でコミュニケーション能力を高めてほしい。
- ③一般的にSNSによる問題が騒がれる中、生野高校からはそういうことを聞きませんので、指導できていると思います。・SNSの利用モラル「まずは、大人から」が大切と感じています。・スマホの使い方、SNSの使い方などは継続してほしい。「なぜだめなのか」が理解できるよう相互に話し合いが必要と考える。
- ④・私が評議員になった10数年前からこの観点がいつも話題になっていました。つまり家庭学習時間がいまひとつ充実していないことなどです。・生活様式が変わる中、意識の変化やICT機器による学習方法の変化などに、ひよとして我々大人の方が対応しきれないのかもと思うことがあります。家庭学習形態の分析も必要かと感じます。・リモート、対面での学習の両立、また、動機づけの工夫、大変ではありますが期待しています。
- ・コロナ禍で家庭で過ごす時間が増えたが、家庭学習時間はさほどかわらない。「時間があってもしない」ことが浮き彫りになった。学校、家庭が丸となり、やる気にさせることが大切。・スタディサブリの効果が発揮され、リモートでの学びの充実につながったと思います。今後はzoomなどの活用も検討して下さい。
- ⑤・いわゆる一流の国立大学への進学者数で進路の評価をするのはどうかと思いますが、われわれが生野高校に在学していたころは、東大、京大、阪大等に毎年何名か入学しておりました。どうもそのイメージがあり、やや寂しくは感じております。多分生徒数の関係でしょうが、夢を実現させる為の的確な進路へのアドバイスを引き続きお願いします。・教職員の「進路指導に関する情報の収集と提供を組織的・継続的に行っているか」のアンケートで、とてもそう思う・どちらかというと思うのがR2で減少している。保護者としては不安。・キャリアアトックカフェや、しごとゼミなど地域と連携した取り組みを継続してください。
- ⑥様々な授業形式の中、改善、研究が実施されること期待しています。・先生方の前向きな姿勢が子供達を前向きに導いてくれると思う。「毎年同じことの繰り返し」ではなく「毎年違うんだ」という気持ちで情熱をもって生徒達と接してほしい。
- ⑦・オンラインなどの工夫もあるとは思いますが、全ての家庭、あるいは社会に方法的にいきわたっているとは言えないと思います。・「はなまる連絡帳」での家族との密な連絡は、とても良いと思った。先生方も大変だとは思いますが継続出来ればと期待します。・便利、「はなまる連絡帳」により、学校での様子がよく分かった。子供は家庭でもよく話をしてくれる。・2年度の評価は無理でしょう。今年開かれていたとすれば逆に問題です。
- ⑧・私の認識している限り問題は聞いていません。・表面化していない、いじめなど早期発見に繋がるよう今後も各連絡をお願いしたい。・コロナ禍において適切な対応をとっていただけたと思うが、2年生の修学旅行は代替策がなかったか非常に悔やまれる。これからも、引き続き「いじめのない学校づくり」にご尽力をお願いします。
- ⑨・一般的に言われている「働き改革」をなさっていると思います。ただ、「聖職とする教職」観も忘れないうでほしいと思っています。・心身の健康保持を心掛けお休みの有効活用、リフレッシュにつなげて下さい。・効率の良い働き方が大切だと思います。息抜きもしっかりして頂くことが次の活力へとつながります。・先生の「働き方改革」が将来の生徒の働きがいにつながりますので、率先して休みを取って下さい。

3 学校自己評価結果(5…よくできた 4…できた 3…どちらともいえない 2…あまりできなかった 1…できなかった)

分野	評価内容	R02平均	学校の取り組み状況・改善の方策
①基本的な生活習慣の確立	・挨拶の励行、交通マナーの向上など社会性の育成や、基本的な生活習慣の確立	4.0	・登校時の昇降口での挨拶の励行と同時に服装、健康状態の確認に取り組んだ。 ・授業開始、終了時の挨拶の徹底等に重点的に取り組んだ。 ・定期的に服装頭髪指導を行い、本校生としての正しい身なりを自覚させた。 ・集会時の集合や礼について、指導し学校生活の環境づくりに努めた。 ・PTAによる挨拶運動や、列車指導等、保護者の協力が得られた。 ・兵庫県警察本部より、令和2年度高校生自転車交通事故防止アクションプログラムにおいて、自転車無事故無違反で表彰された。
②自ら目標を持って学ぶ力の育成	・目的意識を持った学校生活や行事への取り組み	3.9	・第5回ゆめいくプロジェクト発表会、第2回但馬地区高校生フォーラムに向けて、可能な範囲でフィールドワークの実施、ICT機器を最大限活用しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びを推進した。コンソーシアムIKUNO協議会員による生徒の成果発表会での指導・助言等、協働活動も深まった。 ・オンラインでの日本遺産フォーラム、マイプロジェクトアワード等外部の発表会に出場した。
	・課題解決型の学び、探究活動の推進	4.3	・進路意識を高めるため、探究学習の一環として「お金の授業」を取り入れた。 ・英語検定・GTEC等、生徒に目標を持たせ、資格取得に向けた取組を進めた。
	・部活動の活性化	3.1	・生徒数が少ない中で、公式戦の助っ人、普段の練習相手等として部員同士が協力し合っている。 (例)公式戦バスケットボール部女子(バドミントン部・女子バレー部、野球部マネージャー) 普段の練習 バスケットボール部男子と野球部
③人づくりの基盤としての道徳性の育成	・人権HRを通した人権意識の高揚	3.9	・各学年ごとにテーマを決定し、年2回人権HRを実施した。 ・人権啓発映画「めぐみ」「生まれる」鑑賞などを行い、県教育委員会の訪問指導において概ね評価を得た。 ・SNSの利用において、相手を思いやる気持ちを育てるため、適切なスマホ利用の継続指導を行った。
④主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成	・家庭学習習慣及び自ら学ぶ姿勢の確立	2.2	・昨年度平均家庭学習時間1時間12分から今年度は1時間17分へと平均5分増加したが、高校生の学習時間としては非常に少なく、素素の取組(週末課題、小テスト、スタディサブリを利用した課題等)がまだ十分に活かされたとは言えない。 ・コロナ禍の中で主体的、対話的な学びの授業の実施が出来ない時期があり、動機づけを高める取組が十分できなかった。コロナ禍での一層の動機づけの工夫を考えて取り組む必要がある。 ・コロナ禍による臨時休業において、以前からの取組である「スタディサブリ」が例年より有効に機能した。
⑤進路希望の実現	・進路実現のためのカリキュラム設定	3.5	・総合型選抜、学校推薦型選抜(指定校制)による合格が多かった。
	・進路指導の充実及び家庭への適切な進路情報の提供	3.7	・分野別キャリアガイダンス、キャリアアトックカフェ、しごとゼミ等更なる充実を図りたい。 ・面接、小論文の指導など、個々の生徒の進路希望に応じた指導を充実させると同時に、その指導のノウハウを教員間で共有する。
	・キャリア教育の推進	3.7	・今年度はコロナ禍で「スタディサブリ」の生徒の利用率が上昇したが、更に積極的活用を進める。
⑥教職員の資質の向上	・授業の工夫改善及びわかりやすい授業の確立	3.8	・電子黒板やタブレット型PCを活用した授業が定着しており、授業改善に活かしている。 ・1人1台のタブレット授業の時代を迎えようとしており、ICT活用授業のさらなる研究が必要である。 ・コロナ禍による影響で授業内容や方法に制約があったため、学校自己評価が下がったと考えられる。 ・本校の探究学習「ゆめいくプロジェクト」について職員研修会を年2回実施し、共通理解を図った。(4月・1月)
⑦開かれた学校づくり	・家庭への連絡及び情報の積極的提供	4.2	・コロナ禍において、「はなまる連絡帳」を利用し、家庭との緊密な連絡がとれた。
	・地域との連携を図った行事の実施	3.4	・生野高校通信を朝来市内、養父市内、神崎郡内の中学校には、3年生の人数分印刷して配布し、広報に努めた。また、生野町内には各隣保ごとの回覧を依頼した。 ・学校HPのブログ更新を頻繁に行い情報を広く提供すると同時に、より見やすいHPづくりに努めた。
⑧安全安心な学校生活	・校内の環境整備の適切な実施	3.7	・感染予防対策として、校内各所に手指消毒液の設置、体温計の購入、リモートでの全校集会等、様々な対策を講じた。
	・防災や生徒の安全への配慮	3.7	・いじめアンケートを年3回実施し、その結果を精査し、いじめの予防・早期発見に努めた。いじめの認知件数は0件であった。しかし、いじめにつながる可能性のある事案もあり、学年・生徒指導部を中心に生徒指導委員会で職員が連携して対応した。
	・生徒の心身の状況把握及びいじめ等の予防への対処	3.9	・生徒面談やキャンパスカウンセラーの活用により、生徒の心身の状況把握に努めた。 ・4月と9月に防災避難訓練を予定していたが、コロナ禍で実施できなかった。1.17追悼行事、3.11追悼行事を活用し、生徒の防災意識の高揚に努めた。
⑨働きがいのある学校づくり	・ワーク・ライフ・バランスや働きがいのある職場づくり(今年度より新設)	3.3	・毎週金曜日を重点退職(金)日に設定し、職員朝礼で退職を推奨した。 ・8月13・14日を学校閉庁日に設定した。